

MF113 completed

JMAS clears 65000 square meters from mines in Bagram

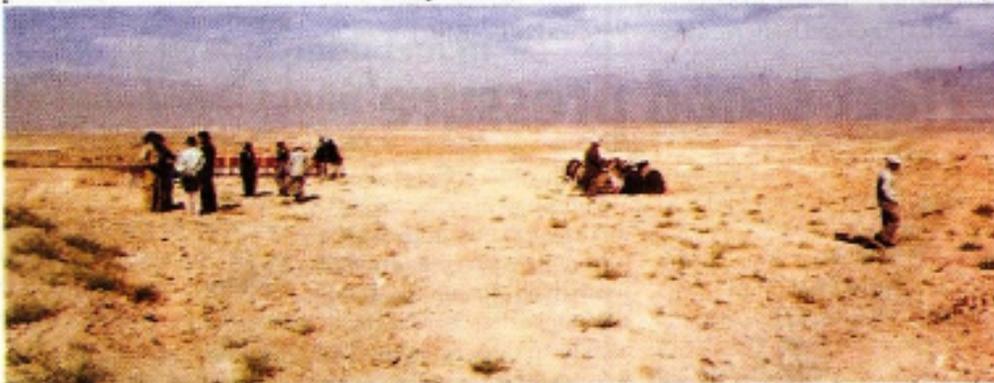
AT Reporter

Kabul: Japan Mine Action Service for Afghanistan (JMAS) has cleared 65000 square of land in Ahmad Jan Qala locality of Bagram District of Parwan province.

According to him, 25 mines were exploded which resulted killing 13 people and wounding 12 people so far the mines were placed and in other 35 mine explosions, which result-

ghanistan adding that he will make every possible effort for a mine free Afghanistan.

Appreciating the government of Japan and JMAS, an elder of Ahmad Jan Qala, Haji



Speaking to the ceremony the de-mining officer of JMAS Gullam Jilani Barakzai said that they have verified 154 mines suspected areas in Bagram district which reaches to 1100000 square meters. Out of which, JMAS will clear 400000 square meters area and the rest will be freed by other mine action organizations. He added that they had defused 362 antipersonnel mines in the area.

ed killing a large number of animals,* According to Mr.Barakzai this area was the battle field during the Afghanistan-Russia war and also during the civil war in Afghanistan.

Talking to media, the chairman of JMAS Mr.Shignobo Comery said that it is the first time that the JMAS is de-mining in Afghanistan.

He agreed on further assistance for clearing mines in Af-

ghanistan adding that he will make every possible effort for a mine free Afghanistan.

Appreciating the government of Japan and JMAS, an elder of Ahmad Jan Qala, Haji Moien said that 300 homes of Kochi tribe lives in Ahmad Jan Qala and they have no hospital and schools. Mr. Moien asked other international welfare organization to build hospitals and schools for their children. Established in early 2001, the Japan Mine Action Service for Afghanistan (JMAS) is functioning in to other countries of the world such as Cambodia and Laos.

最初の地雷原の処理が終わった！

2007年11月6日に、地雷原の周辺住民への土地の引渡し式が行われた。アフガニスタン最大の雇用創出産業、地雷処理員数 8000 人、命を顧みずに国の復興の為に働く聖職者。世界でも最大級のアフガニスタンの地雷処理業界にあって、日本の NGO の規模としては大きいけど、海外や現地 NGO と比較するとマメツブみみたいに小さい地雷処理団体の、でも、僕にとっては大事な大事な第一歩のお話し。

最初の地雷原

JMAS が地雷処理を行ってきた2つの地雷原の内の片方の地雷原の地雷処理が終わった（↑の Afghanistan Times の記事と、JMAS「アフガン報告 第17報」を参照）。カブールから北に約70キロのところにあるパルワン県バグラム郡のカライ・アフマド・ジャン村という村に隣接する MF113 と MF114 の2つの地雷原の地雷処理を、去年の11月からやってきたけど、その内、65000平方メートルある MF113 の処理が終わったのだ。これは JMAS アフガニスタン事業にとっては、最初に処理が完了した地雷原だ。思えば、この業界に入ってずっと取り組んできた事が形になったわけだから、ものすごく感慨深いものがある。地雷処理員の雇用から、彼らが住む宿営地選ぶのから、彼らの装備品から、deployする地雷原の選定から何から何までやってきて、その苦勞（と自分で言うのは変だが）が結果となって表れたということだ。嬉しい！！

日本の NGO がアフガニスタンで地雷処理を行う意義

仕事をしながら、日本の NGO が（実際には、僕の団体しか日本では地雷処理をしていないので自分の所属団体が）アフガニスタンで地雷処理を行う意義について、よく考える。地雷・不発弾はある意味で特殊な事業だと思う。学校建設とか井戸掘りとかクリニックの運営とかっていう開発系の事業には、賛否両論があるのが常だ。

それをすることで本当に現地の人々の幸せに結びつくの？

今のままでも彼らには彼らのコミュニティーがあって秩序があるわけだから、

それを外部の人がいじくる必要があるの？

発展というもの先進国の考え方で、開発援助ってというのはそれを考え方の違う人に押し付けてるだけなんじゃないの？

なんていう根本的な疑問もある。他にも、

開発って言うのは魚を与えるんじゃなくて、魚の釣り方を与えるものなんじゃない？

いいことしてるつもりかもしれないけど、永遠にそこで活動するわけじゃないんでしょ？

撤退した後、彼らはあなたたちが作ったものをどうやって管理・運営していくわけ？

なんていう持続可能性や手法に関する批判まで色々ある。

でも、地雷・不発弾を取り除く活動に関しては、驚くほど（本当に驚くほどに）批判というものがつきまとわない。地雷・不発弾は危ないんだから取り除いた方がいいに決まってるでしょ、で議論は終わりになってしまう。こんな事業、他にあるだろうか？たまたま、ある種の気持ちの悪さとか居心地の悪さすら感じてしまう（こういうやっていることに批判が一切ない事、自分はいい事をしているんですよ、ということをしたことがないの

で)。自分自身としては、あんまり「いい事をしているんだ」という気持ちはない。

話を戻すと、地雷処理の意義についての話しなのだが、日本に限らずどの国の団体であろうと地雷処理を行えばその土地の安全化が行えて地雷・不発弾による被害者を無くすわけだから、意義は確かにある。しかし、もう一步踏み込んで、特に日本の NGO がそれを行う意義というものについて、わざわざ渡航費と給料を出して日本人が現地に行って活動する意義というものについて考えさせられるのだ。よく目的として挙げられる事には、

1. 難民・避難民の帰還・再定住促進
2. 雇用の促進
3. 処理技術の移転
4. 日本人の貢献を国際社会に認知させる事

などが上げられる。

まず、僕がこの中で重要だと思っているのは、2番の雇用促進だ。ウチの NGO では、地雷処理員のほとんどを DDR 修了者から雇用しているのだ。DDR とは、Disarmament, Dismobilization, and Reintegration of ex-combatants のことで、日本語で言えば、元兵士の武装解除、動員解除、再統合（社会復帰）のことだ。軍閥の元にいた兵士の武器を取り上げて、彼らを軍人から市民に変え、更に職業訓練などを施して自立して生活できるようにするプロセスのことを指している。日本はアフガニスタンで DDR を主導してきて、前の東京会議で正式に DDR プログラムが成功裏に終了したと宣言した。日本はアフガニスタンが平和維持段階から平和構築段階へシームレスに移行するに当たって、紛争再発予防の要素を含んだプロジェクトを行い、大きな貢献をしたということだ。

そういう日本としては経緯のある DDR を考慮した時に、地雷処理コースの職業訓練を行った元兵士を地雷処理員として雇うことというのは、非常に意義のあることだと個人的に思っている。動員解除されたはいいけど仕事がなく困っている人が沢山いて、そういう中で、少数ではあるけれども、他の仕事では考えられないほど良い給料を与えて雇用を確保すること、というのはアフガニスタンの平和構築のためのみならず、日本のアフガニスタンへの貢献を国際社会へ示す意味でも意義があると思うのだ（逆に言えば、地雷処理員を1年・2年で無職に戻すことは、彼らの軍閥への回帰を促し、非常に悪い影響があるということだ）。だから、僕はこのプロジェクトを継続することはマストであると思っている。

次に、僕が重要だと思ってるのは、4番目の日本人の貢献ということだ。今まさに、日本がアメリカの標榜する「テロとの戦い（"War on terror"という言説は都合のいいように作り出されて利用されているという側面が強いですけど・・・）」にどうやって貢献していくのかが、日本では連日新聞やテレビのニュースで議論されているが、インド洋での給油活動というオプションと並ぶくらい、日本のアフガニスタン支援への貢献を国際社会へ示していくこと、国際社会への協調を実行動で示すという点で、意味があると思うのだ。別に、それは地雷処理でなくてもいいと思うし、他の事業をしたって十分に示せると思うんだけど、「金を流す、汗を流す、血を流す」という援助の3段階を勝手に設定したとして、本

当の意味で「汗を流す」こと、日本人がアフガニスタン人と一緒になって、アフガニスタンの為に汗を流す事業というのは、とても意義があるのだ。

こうして書いてきて、僕は思う。「意義がある」ということ。それは何に意義があるということ？それは疑いようもなく、僕は「日本の国益」にとって意義があるということの意味してしまっている。人類の為に意義があるとか、地球益になっているという世界観での話ではない。そういう話しであれば、別に日本の NGO でなくてもよいのだ。アメリカでもイギリスでも中国でも UAE でもバチカン市国でも何でも良いのだ。でも、そういう議論ができない。それって何で？

「国家」というもの

僕らはまだ国家 (nation-state) を飛び越えられる時代には生きていない。一般的には、1648年に結ばれたウエスト・ファリア条約から国民国家という概念が定着したと言われていたが、僕らは Regional Organization とか United Nations を具現化する時代に移行しつつあるが、しかしながら、依然として nation-state に固執せざるを得ない時代にいるのだ。それはどうしようもない現実だ。

この前、ある人から言われた。

「人道支援とか平和の為にとか言うけど、やっぱり国のお金使って、国民の血税使ってやってるんだから、(ODAを含めて) 国益を追究しない政策なんてあり得ないよね」

それは至極もつともな意見であって、反論の余地があんまりない。税金を使って事業を展開している NGO の職員がこの意見に反対することなんて出来る？これは、極めて現実路線の意見だ。

賢明な人は気が付いていると思うけど、上の考え方は国際政治学でいうところのリアリズム (Realism : 現実主義) だ。国際政治学で現実主義と双璧をなす考え方がリベラリズム (Liberalism : 自由主義・理想主義) というものだ。こういう議論って結局、世界の見方の問題であって、大人になるとやっぱりそれぞれの立場があるから意見の相違は避けられないものだと思う。そして、リアリズムを国家に奉職している人が信じるのは必然だと思う。外交官や自衛隊や各省庁に勤める国家公務員が、リアリズムじゃなかったら、僕は一国民として、それってどうなの、と思わず言ってしまうかもしれない。

しかし、同時に思うのは、日本は援助政策において国益のプラスアルファを求めていく義務があるのではないかということだ。第二次世界大戦で敗れて、原爆を落とされた国家として、そして、そこから這い上がって経済大国になった国家として、世界が向かっていくべき理想のようなものを、あいつらはお人よし、典型的な金持ちのボンボンの発想だという批判を受けつつも、追及していてもいいんじゃないかという気がするのだ。そんなことができるのは識字率が 99%以上ある教育の行き届いた国だからかもしれないし、食う

食わないの話しを日常レベルでしないでもいい家庭がほとんどだからかもしれない。やっぱりお人よしのボンボンだからかもしれない。でも、国益を超えたもの、理想みたいなものをリーディング・ネーションとして世界に示していったっていいんじゃないの？って僕は思う。

人道支援を政治に道具にはしないで

今、日本では本当に毎日、民主党の小沢代表が辞任するとか（今日、続投するというニュースがあったけど）、テロ特措法の延長の話とか、アフガニスタンやイラクでの支援の話とかがトップニュースで取り上げられていたり、国会でアフガニスタンでの支援の状況を議論したり、国会とかその方面から問い合わせが来たりしていて、アフガニスタンの支援に関わる人間としてちょっとびっくりしつつ、同時に、注目を集めていることに嬉しく思ったりする（あんまりいいニュースで注目を集めないアフガニスタン・・・嗚呼）。でも、危険だなんて思うのは、人道支援を政治の道具にしてしまう傾向がちらほら見えることだ。この前、国会で、アフガニスタンで自衛隊の OB が地雷処理をしている、とある議員が言っていた。それを言っていたのは確かテロ特措法の延長に反対している野党の議員で、給油活動じゃなくても国際社会に日本の貢献を示していくことはできるんじゃないか、というコンテキストだった。人道支援とリアリズムとリベラリズム。うーん。ひょっとして、人道支援が政治の道具になっている？というかそれは昔から？

人道支援は人道的見地から行われるもの、だからリアリズムが入り込む余地はない、なんてことは言わない。それにしても、そういう事が国会で当たり前に語られてしまうことってというのは援助関係者として言葉を挟まずにはいられない。いや、国際社会への協調を示す為にもっとアフガニスタンへ人道支援をしていこう、給油活動以外のことでもいいじゃないか、というのは今の僕が置かれている状況からすると間違いなく追い風なのだ。アフガニスタン支援は政治的に重要じゃないか、そしたら、どんどんお金をつけますよ、なんて言われたら嬉しくないわけではない。しかーし、裏を返せば、それって政治的に重要じゃなかったらお金が出ない、そして支援活動はどんどん縮小してしまうってことでしょ？現場にいる実感というか感じ（雰囲気）としては、アフガニスタンの支援、特に地雷という事で言えば 2013 年（オタワ条約によるプライオリティー 1 の地雷処理の期限）くらいまでは安泰なのかなという気がする。向こう 5 年って感じ？しかし、怖いのはその後だ。

援助には潮流っていうものがある、カンボジアにいてアフガニスタンに来たという人が沢山いて、最近アフガニスタンからスーダンに行ったという人が僕の周りだけでも沢山いる。別に悪いことだと言うつもりはない。悲しいかな、お金がないと事業運営はできないのだ。これはリアリズム以上に僕達にとってはリアルな話しなのだ。でも、そうやって流れによってブームが終わってしまった国は見捨てられてしまうというのは、「人道的」という言葉から連想されるイメージからはかけ離れてしまっているんじゃないかなあという気がしてしまうのだ。でも、それが現実なので末端で草の根支援をしている自分としてはその

現実を受け入れるしかない。今日も世界はそうやって回っていくのだ。

でも一つだけ言いたいのは、人道支援を政治の道具にはしないで、ということ。そうなってしまったら、スーダンに話題を持っていかれた後のアフガニスタンはどうなってしまうの？地雷に囲まれた村で住んでいる村人はどうなってしまうの？旱魃がある度に水不足で死人が出る、栄養状態が悪くて5歳になる前に死んでいってしまう乳幼児はどうなってしまうんだ？日本の国益も大事だけど、一番重要なのは末端で本当に困っている人たちが何を求めているのか、じゃない？本部にいる人はともかく、少なくとも現地でそれを知っている人はその立場を表明し続ける義務がある。水際で戦う必要がある。そう思う。迷ったら、本当に支援が必要な人のことを考えて戦うのだ。それが僕らに与えられた義務だ。

結語

結局、一貫した論旨のない文章だった。それは自分自身の中にどっちを取るべきかへの迷いがあるからだろう。それでも、思ったことを残しておこうと思って書いておくことにした。僕はいつも色々な人の意見を聞いたりして問題の両側面を見てみて、それで結局、新進気鋭の評論家のようにこうすべきだという切れ味鋭い文章を書く事ができない。でも、**one-sided**な意見を信じ込んで主張するよりもずっと安全で健全で人畜無害なんじゃないかと思ったりする。だから、結論を導くことができないまま文章を締めくくりにしたいと思う。雑感みたいな文章、目の前にある迷いをそのまま表したみたいな音楽、頭の中にあるイメージだけを抽出したみたいな絵。そういうものが僕は好きなのだ。

最後に、退避勧告でアフガニスタンに民間人が入れない今、アフガニスタンの現状を伝える義務がアフガニスタンで働いている人々それぞれに課せられているのではないだろうか。マスコミはもう取材してくれないだろう。自分の目で見て記事を書いてくれる新聞記者もいなければ、乗り込んでくるテレビクルーもいないだろう。だから、政府の人も国連の人もNGOの人も、どうやってアフガニスタンのことを日本にいる人に伝えていくかということ、広い視野で柔らかい頭で考えていく必要があるのではないだろうか。

末筆に、団体としての意見ではなくあくまでも僕個人のコメントして聞いて欲しいのですが、最初の地雷原の終了という成果は、僕一人ではできなかったことだし、僕らの団体だけではできなかったことでした。これまで支えて下さった方々や、関係者の皆様に、この場を借りて個人的に感謝の気持ちを表したいと思います。

ありがとうございました！

Lots of Love ! Big Hug ! !

ケンタ